

2013年度事業計画書

(2013年1月1日～12月31日)

法人の名称 NPO 法人 教育支援グループ Ed. ベンチャー

1 事業活動方針

昨年末に政権が交代したこともあり、2013年は前年度よりも社会状況をより注視し、且つ立場を明確にしながらかつ活動すべき年度となると言わねばならない。活動が拡大していく中で、より多くの賛同者や参加者を集めることは毎年度の方針であるが、「活動すること」が目的ではなく、理念を共有し、あるべき未来の社会とともに構想していく「仲間」を増やすことを目指していきたい。そのために、まずは認定NPO法人化を目指す事を進めていく。さらに、各活動の中で、また法人全体として、理念と活動の周知を推し進めていきたい。

2 事業内容

1) 特定非営利活動に係る事業

(1) 学校支援事業

ア 教師・保護者支援部

①理論学習会

- ・内 容 今現在、学校で起こっている問題や学校を取り巻く社会、これから子どもたちが進んでいく社会の状況など、学校に関わって考えておく必要があるテーマを取り上げて、学習会を行う。2012年に学習を進めていく中で、若い先生が教育界の歴史をよく知らないということがわかった。そこで2013年は「理論学習会序説」として、4月から6月にかけて連続講座を開催する。詳細は下記の通り。後半はこの「理論学習会序説」を受けての文献講読や講演会の開催、また小・中学校で実際に起こった事例をもとにした研究会、2012年に拡大理論学習会で扱った外国人についての学習会などを進めていきたい。

理論学習会序説① 講師 清水睦美氏(東京理科大学)

内容:いじめ(4/22・26)ー時代の変化とともに読み解く・いじめの多い教室/少ない教室ー

学校と社会(5/13・16)ー時代と政策の関係・位置づけられる学校/位置つき直す学校ー

理論学習会序説② 講師 柿本隆夫氏(大和市立下福田中学校)

内容:教師の位置から学校と時代を読む

理論学習会テーマ

1. 若者の就職・労働の現状・問題 近い将来に目の前の子どもたちが向き合う就職・労働の問題を学ぶ。
2. 外国人について 大人の労働・生活の現状について知る
3. 特別支援 設置された経過、枠組みや国際級との関係を確認する。
4. 事例研 児童生徒への対応、学級経営についてなど

- ・日 時 4月から6月については上記の通り

7月以降は第1月曜日に開催。ただし、8月については、第1月曜日開催ではなく、夏休み終了近くとする。また、祝日・振替休日となる日は避け、翌週とする。

時間は19:15～21:00

- ・場 所 富士見文化会館
- ・従事者人員 3人
- ・対 象 者 教師・教職志望の学生を中心に、広く一般市民なども対象
- ・支出見込額 50,000円

②授業研究会（小5・6教室）

- ・内 容 「子どもの実態に合わせて授業をする場」

小5・6年教室では集団を対象とした授業の中で、外国人の子どもたちを見ていこうと考えている。授業を通して、地域に暮らす外国人の子どもたちどうし、そして教師とのつながりを大切にする場にしたい。授業は、来ている児童の実態に沿って考え、成長を見取っていききたい。必要に応じた「学び」のために、教科の枠にとらわれない授業の展開をするためにも、様々な教師に授業をしてもらいたいと考えている。日本で生活する外国人の子どもが必要とする力は何なのか、探っていきたい。

- ・日 時 毎月第1・3土曜日 授業 17時～18時30分 話し合い 19時～20時
- ・場 所 渋谷中学校開放
- ・従事者人員 3人
- ・対 象 者 外国人の小学校5,6年生
- ・支出見込額 24,000円

③教育講演会

- ・内 容 講師:加藤清先生(陸前高田市立小友中学校 校長)
:白木次男先生(南相馬市立原町第一小学校 教諭)

演題:「つなぐ力・のりこえる力・・・被災地の実践から、教育の可能性を学ぶ・・・」

(後援:大和市教育委員会)

3. 11から2年が過ぎようとしている今でも、被災地が大きく復興へ歩み出したとは思えない。それどころか、瓦礫の受け入れ先もないまま、津波の傷跡は残され、原発事故によって避難せざるを得なかった人々の帰宅への道も見えない。こうした状況にあっても、被災地の学校では、被災の経験を持つ子どもたちと正面から向き合い、辛く言葉にできない経験を乗り越えるべく実践に取り組む教師たちがいる。こうした実践を教えていただく中で、改めて、私たちが今取り組まなければならないことを明らかにしたい。

- ・日 時 2/16(土) 13:00-17:00
- ・場 所 渋谷学習センター 多目的ホール
- ・従事者人員 活動担当人数 4人 当日係 15人
- ・対 象 者 会員 市民 学校関係者 学生 研究者
- ・支出見込額 148,000円

④教師相談

- ・内 容 予想以上に小学校の現場は、問題が山積しているように思われる。教師集団の急速な若返り、中堅教師の不在、学校現場への過度な調査をはじめとする上からの指示の厩大化により、研究はおろか、教師どうしの話し合いの不足が目立っている。そういう中で、教師歴4,5年の教師たちの不安感は増しており、これらの教師たちを支援することが必要だと痛感している。

そこで、今年度は、一層、現場の課題を把握し、学習会を計画的に行っていきたい。

また、就学前児童の置かれている状況を知るとともに、保育士の方たちとも連携していけるような取組もできると良いと思っている。

相談には随時対応する。

4月 新年度が始まって困っている事。

5・6月 学年の基礎基本(年間指導計画の立て方
学校組織の運営

7月～3月 授業研究

- ・日 時 不定期
- ・場 所 当法人事務所、富士見文化会館、大和市内小・中学校
- ・従事者人員 責任者は1人だが、課題によって外部指導者を招請3～4人
- ・対 象 者 市内教職員・保育士
- ・支出見込額 12,000円

イ 学校支援部

①研究者による支援

- ・内 容 学校や教師からの要請に応じて、研究者による支援を行う。
- ・日 時 随時
- ・場 所 神奈川県内の公立学校
- ・従事者人員 活動担当1人+要請に応じてスタッフ人数を決定
- ・対 象 者 学校・教師・子ども
- ・支出見込額 2,000円

②教育ボランティア

- ・内 容 要請に応じて、学校や教師の支援を行う。3月までは引き続き引地台中学校の外国人生徒支援を継続し、放課後教室での外国人生徒の居場所づくりを支援する。その他、学校や教師の要望があれば、組織的検討を経た上で対応する。
- ・日 時 随時
- ・場 所 神奈川県内の公立学校
- ・従事者人員 4人
- ・対 象 者 学校、教師、子ども
- ・支出見込額 17,000円

(2) 外国人支援事業

ア 大人支援部

① 生活相談

- ・内 容 今まで通り外国人の方の相談に応じる。その中で日本での生活上困っていたことが日常の生活から知っていたら良かった、また、知ってもらいたいなど、相談という形以外に何かできないか。外国人同士も一緒に話し合ううちに、それが知る機会になったら良いのではとの打合せでの意見から、今年度は、日本語教室と連携して1ヵ月に1回懇談会を開くことに決める。日本語教室を11:30までとし、

その後1時間ぐらい担当の相談員も交えて話し合い、情報交換の場としても参加者が増えると思う。
具体的に2月24日(日)に、1回目を予定する。

- ・日 時 <定期相談> 毎週日曜 11:00-13:00(日本語教室開催時)
<懇談会> 毎月1回日曜日 11:30-12:30
<個別相談> 随時
- ・場 所 渋谷中学校開放、当法人事務所、その他適宜
- ・従事者人員 4人
- ・対象者 外国人
- ・支出見込額 50,000円

②お父さんとお母さんのための日本語教室

- ・内 容 「聞く」「話す」「書く」の学習を中心に今年度も進めていき、スピーチ大会を更に充実した内容にしていく。教室が一つの外国人どうしのつながりの場になっているところがあり、その意味でも日本語学習だけでなく、お互いの情報の交換や、問題解決の場として外国人コミュニティ構築の支援をしていきたいと思う。具体的な内容は下記の通り。
 - ・生活に必要な日本語の獲得を目指す
 - ・日本の社会情勢の変化を伝え、特に簡略化された漢字語、和製英語等の解説
 - ・スピーチ大会を継続する
 - ・小学校4年生までの漢字学習
- ・日 時 毎週日曜日(毎月4回)10:00~12:00
- ・場 所 渋谷中学校開放
- ・従事者人員 5人
- ・対象者 外国人の大人
- ・支出見込額 29,000円

イ 子ども支援部

①保証人事業

- ・内 容 外部の奨学金を受ける際に、保証人を用意できない外国人の学生の保証人を引き受ける。保証については、依頼者との面談を経て保証を決定する。年2回報告会を開き依頼者が保証人グループへ、保証内容、返還状況、近況を報告する(文書を添えて)。
- ・日 時 依頼の面談は随時、報告会は1月26日(土)と7月
- ・場 所 富士見文化会館、渋谷中学校開放
- ・従事者人員 保証人グループメンバー9人
- ・対象者 外部の奨学金を受ける際に、保証人のいない外国人の学生
- ・支出見込額 12,000円

②すたんどばいみー基金の会

- ・内 容 「すたんどばいみー」で活動する高等教育在学学生に対し、学費の援助を行う。
- ・日時・場所 ①2012年報告会開催:2013年1月26日 16:00-19:00(渋谷中学校学校開放)
②常任委員会:不定期・必要に応じて(富士見文化会館)

③2013年報告会準備(2014年1月25日開催予定)

- ・従事者人員 常任委員12人(担当者2名含む)
- ・対象者 支援者45人+新規支援者 貸与者5人+新規貸与者
- ・支出見込額 21,000円

③子どもの居場所・学習教室

<エステレージャ・ハッピー>

- ・内容 主に大和市在住の外国人児童生徒を対象に、学習支援を行う。今年度は特に、子ども達が「外国人としての自分」を整理し、隣にいる子ども達と「外国人として」繋がること、そのために、スタッフが個々の子ども達の現状を知ること为目标に取り組む。小学生と中学生の課題が異なることから、「小学生教室」と「中学生教室」に分けるとともに、子ども達自身でその日の取り組みを振り返り「記録」をつけたり、5年生以上では、自分の国や「外国人であること」の学習を取り入れる。また、学習だけではなく、スタッフは家庭や学校について話を聞いたり、子どもとやりとりしながら「個人プロフィール票」を作成する。イベントは小中それぞれの教室で企画する。3月には、6年生の卒業お祝い会を企画する。

また、引地台中学校在籍の中学生を対象に、暫定的に学校の近くで「柳橋教室」を開催する。

- ・日時 土曜日 10:00-12:00 (「柳橋教室」 水曜日18:00-20:30)
- ・場所 大和市立林間小学校開放 (「柳橋教室」 大和市コミュニティーセンター柳橋会館)
- ・従事者人員 20人
- ・対象者 外国人児童生徒 30人

<Kokusai B.G.>

- ・内容 主に厚木市在住の外国人児童生徒を対象に、学習支援を行う。学習とともに、日常の生活や今後の進路について話し合う教室にしていきたい。
- ・日時 水・土曜日 14:30-16:30
- ・場所 厚木市ヤングコミュニティーセンター、厚木市パートナーセンター
- ・従事者人員 4人
- ・対象者 外国人児童生徒 5人
- ・支出見込額 267,500円(エステレージャ・ハッピーとKokusai B.G.合算)

④ 当事者活動支援

- ・内容 「すたんどばいみー」をはじめとする、外国人青少年当事者による活動に対して、活動費の補助、助言、協力をを行う。
- ・日時 随時
- ・場所 不定
- ・従事者人員 3人
- ・対象者 外国人の子どもの当事者団体
- ・支出見込額 65,000円

(3) 学校及び外国人支援に関する普及啓発事業

- ・内容 当法人の周知及び学校支援、外国人支援の必要性を広く市民に呼び掛けるため、パンフ

レット、会報、講演録を作成し、配布する。また、講演会や理論学習会の参考資料を購入・配布する。HPについては、前年度までのホームページ支援担当を事務局に組み込み、当法人のHP改訂、更新作業を行う。

- ・日 時 <パンフレット>作成・配布:3月 <会報>作成・配布:1月・7月
<講演録>作成・配布:講演会(2月)、理論学習会開催後
<参考資料配布>講演会(2月)、理論学習会開催時 <HP更新>随時
- ・場 所 当法人事務所
- ・従事者人員 2人
- ・対象者 会員及び配布希望者
- ・支出見込額 91,000円

(4) 法人の事業円滑実施のための活動

- ・内 容 法人の活動を円滑に遂行するため、事務局の運営、活動報告会開催を行う。
 - ①事務局の活動:外部からの問い合わせや依頼に対する対応、各活動の掌握、活動相互の連携補助、スタッフブログの更新、法人の出納に関すること、資料整理、活動報告会の設定、会員管理
 - ②活動報告会の開催:各活動の報告、活動間の連携に関する事項や活動推進上の諸問題解決に関する事項、総会に付議する事項を検討。
 - ③総会の開催
- ・日 時 ①事務局:原則10:00-18:00 ②活動報告会:6回程度
③総会:2月16日(土)11:00-12:00
- ・場 所 ①事務局:当法人事務所 ②活動報告会:富士見文化会館その他
③総会:渋谷学習センター
- ・従事者人員 ①事務局:2人
②活動報告会:理事25人
③総会:正会員:111人
- ・支出見込額 801,500円

(5) 特別会計事業

<東日本大震災支援事業>

- ・内 容 ①陸前高田の支援に関しては、教育支援チーム「まつ」の後方支援を充実させる。特に、活動拠点の施設や教育関係資料の充実にかかわること、先生や子どもたちへの具体的働きかけのお手伝いに取り組む必要がある。
 - ②石巻市万石浦子ども支援に関しては、子どものニーズを拾い上げながら、活動内容を決定し、東京理科大学生スタッフを中心とした「ライオン学校」の活動として継続していく。進学や進級など、大きな学校生活や環境の変化に対しては、子どもたちの様子に注視していく。また、課題を抱える子どもに対しては、個別のアプローチを継続していく。現在準備中の保護者の支援団体も立ち上げ、当該地域での親同士のつながり、子ども同士のつながりを強めていきたい。
 - ③富岡町の学校支援に関しては、依頼があった時点で内容を精査して取り組む。
- ・日 時 不定期
- ・場 所 被災対象地

- ・従事者人員 3人
- ・対象者 被災地関係者
- ・支出見込額 1,840,740円

<すたんどばいみー基金>

- ・内容 基金の貸与・返金の受取・寄付や積立の受付等を随時行う。
- ・日時 不定期
- ・場所 随時
- ・従事者人員 常任委員 12人(担当者2名含む)
- ・対象者 支援者45人+新規支援者 貸与者5人+新規貸与者
- ・貸与見込額 6,720,000円(2013年度末見込)